

赤字：R 6 年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
基本戦略 1 生態系の健全性の回復	状態目標1-1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	GBFヘッドライン指標	A.2 Extent of natural ecosystems 自然生態系の広がり		○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（有識者ヒア）	各生態系のコア指標に基づく統合指標	統計モデルによる統合：NIES担当か。各生態系のコア指標が決まってくると、それを統合した指標を作ることが可能だが手法含め開発中。5年毎に更新。	○	○	○	○	○	A	どの生態系で評価可能かは今後検討
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	NBSAP指標（行動目標）	陸域における保護地域及びOECMの面積割合	Protected Planetに提出しているボリゴンデータに基づき、陸域における保護地域及びOECM面積割合を算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	NBSAP指標（行動目標）	OECM面積（陸域）	Protected Planetに提出しているボリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	NBSAP指標（行動目標）	保護地域面積（陸域）	Protected Planetに提出しているボリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	NBSAP指標（行動目標）	陸域（KBAs）に対する保護地域・OECM該当面積割合	Protected Planetに提出しているボリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	保護地域による絶滅危惧種の集中地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 絶滅危惧種の集中地域のうち既存の保護地域に含まれるもの	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	保護地域による元・普通種の集中地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 元・普通種の集中地域のうち既存の保護地域に含まれるもの	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	保護地域による重要地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 域（モニ1000調査地、生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報、里地里山メッシュ、Satoyama Index、重要里地里山、重要湿地）のうち既存の保護地域に含まれるもの	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	NBSAP指標（行動目標）	自然共生サイト認定後に更新されたサイト数	自然共生サイトは5年毎に更新する制度を予定しており、認定後、初めての更新時で更新したサイト数を計上する（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	自然共生サイトによる絶滅危惧種の集中地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 絶滅危惧種の集中地域のうち自然共生サイトに含まれるもの ※GISデータ非公開のサイトが含まれるため、位置情報は点のみ表示とし、集計値は全国合計のみを使用。	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	自然共生サイトによる元・普通種の集中地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 元・普通種の集中地域のうち自然共生サイトに含まれるもの ※GISデータ非公開のサイトが含まれるため、位置情報は点のみ表示とし、集計値は全国合計のみを使用。	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	自然共生サイトによる重要地域のカバー状況	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 域（モニ1000調査地、生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報、里地里山メッシュ、Satoyama Index、重要里地里山、重要湿地）のうち既存の保護地域に含まれるもの ※GISデータ非公開のサイトが含まれるため、位置情報は点のみ表示とし、集計値は全国合計のみを使用。	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	面積	JBO3指標	B1-1 土地利用面積	国土交通省「土地利用現況把握調査」、農林水産省「作物統計」、林野庁「森林資源の現況」より把握	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	生物種数・多様性	GBFヘッドライン指標	A.1 Red List of Ecosystems 生態系レッドリスト		○	○	○	×	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	JBO3指標	B9-2 海外から輸入される「生きている動物」等の輸入量	財務省「貿易月表」	△	○	○	○	○	C	輸入された動物が生態系に悪影響を及ぼすとは限らない。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	JBO3指標	B9-3 海外から輸入される「生きている動物」の近年の輸入数	財務省「貿易月表」	△	○	○	○	○	C	輸入された動物が生態系に悪影響を及ぼすとは限らない。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	新規	海外へ輸出される「生きている動物」の近年の輸出数	財務省「貿易月表」	△	○	○	○	○	C	輸出により日本の動物の個体数が減少し、生態系に悪影響を及ぼすとは必ずしも言えないため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	外来鳥類の個体数	全国繁殖鳥類調査をもとに行った推進費の研究結果（山浦先生）より引用	△	○	○	○	×	C	鳥類に偏った評価であるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	外来鳥類の分布変化	全国繁殖鳥類調査をもとに行った推進費の研究結果（山浦先生）より引用	△	○	○	○	×	C	鳥類に偏った評価であるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	特定外来生物の種の分布	自然環境保全基礎調査総合解析より把握（複数種の総合評価手法は要検討） 対象種は特定外来生物のうち143種（哺乳類9種、鳥類6種、爬虫類6種、両生類3種、淡水魚類7種、昆虫類6種、甲殻類2種、クモ・サソリ類2種、軟体動物2種） 時期は～80年、80年代、90年代、2000年代、2010年～	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	気候変動指標種の分布変化	自然環境保全基礎調査総合解析より引用し分布域の変化（重心の位置等）を定量評価	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	生態環境	JBO3指標	B32-1 日本の二酸化炭素排出量※	環境省、2024：日本国温室効果ガスインベントリ報告書 2024 年	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	生態環境	JBO3指標	B32-2 年平均気温	気象庁、「日本の年平均気温」・気象庁ホームページ	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系全体	－	生態環境	JBO3指標	B32-3 日降水量100mm以上の日数の出現頻度※	気象庁、「異常気象リスクマップ」・気象庁ホームページ	○	○	○	○	×	B	

赤字：R6年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系ネットワーク	森林	—	NBSAP指標、JBO3指標（自然環境保全基礎調査総合解	生態系の連続性・生態系ネットワーク指数のうち森林	自然環境保全基礎調査総合解析より把握 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の植生凡例のうち森林（植林を含む／含まない）、および草地（農地を含まない）を用いたECA解析	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系ネットワーク	森林	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	生態系の連続性・生態系ネットワーク指数のうち都市の森林の連続性	自然環境保全基礎調査総合解析より把握 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の植生凡例のうち市街化区域内での森林（植林を含む／含まない）を用いたECA解析	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系ネットワーク	湿地	—	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	生態系の連続性・生態系ネットワーク指数のうち湿地	自然環境保全基礎調査総合解析より把握（NBSAPの記載：環境省自然環境保全基礎調査における植生図データ（1/5万、1/2.5万）を基に生態系の連続性を指数化しそのトレンドを評価する。（10年に1回程度））	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	生態系ネットワーク	草地	—	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	生態系の連続性・生態系ネットワーク指数のうち草地	自然環境保全基礎調査総合解析より把握（NBSAPの記載：環境省自然環境保全基礎調査における植生図データ（1/5万、1/2.5万）を基に生態系の連続性を指数化しそのトレンドを評価する。（10年に1回程度））	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体 自然草原 自然林 二次林 人工林	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	森林生態系面積（各生態系区分ごとの面積）	・1/2.5万植生図及び衛星植生速報図（相観レベル）により把握する。	○	○	○	○	○	A	全体、自然林、二次林、人工林で評価
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体 人工林	面積	JBO3指標	B16-1 森林面積（天然林・人工林）	林野庁『森林資源の現況』	○	○	○	○	○	A	全体、人工林で評価
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	面積	JBO3指標	B1-9 林地からの都市的土地利用への転換面積（目的別用途）	国土交通省「土地白書・土地利用転換の概況」	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生物種数・多様性	新規（有識者ヒア）	樹木多様性変化	推進費業務より提供。森林生態系多様性基礎調査	○	○	○	○	×	B	本指標が自然林・二次林・人工林に分けられる場合は分けて分析
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生物種数・多様性	新規（有識者ヒア）	下層植生多様性変化	森林生態系多様性基礎調査	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生物種数・多様性	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	森林性の絶滅危惧種と元・普通種の集中地域	自然環境保全基礎調査より引用 絶滅危惧種、元・普通種のうちハビタット別分布の「森林性」の種の分布	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	NBSAP指標	ニホンジカ推定個体数	前年までの捕獲数等の情報をもとに、ハーベストベースドモデルを基本とした階層ベイズモデルを用いて推定（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	NBSAP指標	イノシシの推定個体数	前年までの捕獲数等の情報をもとに、ハーベストベースドモデルを基本とした階層ベイズモデルを用いて推定（毎年）	△	○	○	○	○	C	イノシシは、シカと違って植生に大きな影響を与えていない。また、多産型で生息数・密度は変動が大きく、傾向を
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生物種数・多様性	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	ニホンジカとイノシシの推定生息密度	自然環境保全基礎調査総合解析より引用。鳥獣保護管理室より提供のデータ。2015年と2023年の推定値。	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	JBO3指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	B18-1 ヒグマ・ツキノワグマの分布変化	環境省 自然環境保全基礎調査より引用。対象種は第一種特定鳥獣保護計画・第二種特定鳥獣管理計画の対象種である 中大型哺乳類（シカ、イノシシ、クマ、ニホンザル、カモシカ）のうちヒグマ、ツキノワグマを抽出	○	○	○	○	○	A	分布については簡易なデータと考え、種の個体数・分布域として扱う。（必要に応じて変更）
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	森林地性鳥類個体数	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	本指標が自然林・二次林・人工林に分けられる場合は分けて分析
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	森林地性鳥類分布	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	新規（モニ1000）	積雪深とガビチョウの分布の関係	モニタリングサイト1000報告資料より引用	△	○	○	○	○	C	一種であるため部分的に合致すると判断。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	種の個体数・分布域	新規（モニ1000）	シカの生息状況とウグイスの個体数変化	モニタリングサイト1000報告資料より引用	△	○	○	○	○	C	一種であるため部分的に合致すると判断。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生息環境	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	ニホンジカによる森林生態系への影響度の変化	自然環境保全基礎調査総合解析より引用 森林生態系基礎調査の第3期（2009～2013）および第4期（2014～2018）の調査データから、下層植生衰退度（藤木,2012）（以下、SDR）に就いて、低木層と林床植生の被度を算出	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生息環境	新規（モニ1000）	シカの増加と樹木の新規加入率の関係	モニタリングサイト1000報告資料より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生息環境	JBO3指標	B16-5 松くい虫被害量	林野庁『全国の松くい虫被害量（被害材積）の推移』より被害材積を引用 人工林、天然林マツ類蓄積に対する被害材積量を算定	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体	生息環境	新規	ナラ枯れ被害量	林野庁HP「ナラ枯れ被害」より引用 人工林、天然林ナラ類蓄積に対する被害材積量を算定	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	全体 人工林	面積	JBO3指標	B19-1 森林蓄積	林野庁『森林資源の現況』	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然草原	生物種数・多様性	NBSAP指標	森林の多様度（自然草原における維管束植物の種数）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度） ・対象分類群：維管束植物 ・指標：維管束植物の種数。（シカの影響を懸念する場合、維管束植物種の植被率を追加。）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然草原	生物種数・多様性	NBSAP指標	森林の多様度（自然草原における維管束植物の植被率）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度） ・対象分類群：維管束植物 ・指標：維管束植物の種数。（シカの影響を懸念する場合、維管束植物種の植被率を追加。）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然草原	生息環境	新規（モニ1000）	高山帯における土壌の凍結終日の変化	モニタリングサイト1000報告資料より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然草原	生息環境	新規（モニ1000）	大雪山における高山植物の開花時期	モニタリングサイト1000報告資料より引用	○	○	×	○	○	B	

赤字：R6年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	自然草原	生息環境	JBO3指標	B12-10 ハイマツの年枝伸長量の推移	環境省・モニタリングサイト1000 プロジェクト（https://www.JBiodic.go.jp/moni1000/findings/data/index.html）よりダウンロード	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	自然林	生物種数・多様性	新規（モニ1000）	亜寒帯/亜高山帯ー冷温帯の境界、及び冷温帯ー暖温帯の境界での樹木構成の変化	モニタリングサイト1000報告資料より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	自然林 二次林 人工林	生物種数・多様性	NBSAP指標	森林の多様度（モニタリング1000サイトの樹木の種数）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	自然林 二次林 人工林	生息環境	NBSAP指標	森林の多様度（モニタリング1000サイトの樹木の地上部現存量）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然林 二次林	生物種数・多様性	NBSAP指標	森林の多様度（モニタリング1000サイトの鳥類の種数）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度） ・指標：鳥類の種数（林内の階層構造の多様性と鳥類の多様性に相関するという研究成果あり）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林	自然林 二次林	生物種数・多様性	NBSAP指標	森林の多様度（モニタリング1000サイトの鳥類の個体数）	・モニタリングサイト1000のサイト毎の種多様度を算出してトレンドを把握する。（5年に1回程度） ・指標：鳥類の種数（林内の階層構造の多様性と鳥類の多様性に相関するという研究成果あり）・個体数	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加	森林	二次林	生息環境	JBO3指標	B6-1 薪炭の生産量	農林水産省「特用林産物精算統計調査」	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	人工林	生息環境	JBO3指標	B19-2 針葉樹・広葉樹別国内素材生産量	農林水産省『木材需給表（累年統計）』より統計値を取得	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	人工林	面積	新規	間伐面積	森林・林業統計要覧(林野庁)	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	森林	人工林	面積	JBO3指標	B16-2 人工造林面積	林野庁『森林・林業統計要森林・林業統計要覧』	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	全体	面積	JBO3指標 (委員照会)	B6-3 耕作放棄地面積	農林水産省「農林業センサス」「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査結果」	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体 水田 畑・果樹園・牧草地	面積	NBSAP指標	農地生態系面積	・1/2.5万植生図により把握する。	○	○	○	○	○	A	全体、水田、畑・果樹地・牧草地で評価
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体	面積	JBO3指標	B20-1 耕地面積	農林水産省『作物統計』より統計値を取得	△	○	○	○	○	C	農業地域類型別耕地面積の方が質を一部考慮した評価を行うためC評価。（1960年からの経年変化が終えるため指標
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体 水田 畑・果樹園・牧草地	面積	新規（委員照会）	農業地域類型別耕地面積	農林業センサスより統計値を取得	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体	面積	JBO3指標	B1-8 農地（耕地）から宅地・工場用地などへの転用面積（人為かい廃面積）	農林水産省「作物統計」	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	開放地性鳥類個体数（新規）	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	本指標が水田、畑・果樹地・牧草地等に分けられる場合は分けて評価
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性	農地	全体	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	開放地性鳥類分布（新規）	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	水田	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	放棄水田の面積	自然環境保全基礎調査から引用 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の比較に基づく。放棄水田は「放棄水田雑草群落」で集計。	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	水田	面積	JBO3指標	B20-2 水田整備面積及び水田整備率※	農林水産省『農業生産基盤の整備状況について』（元データ）農林水産省統計部『耕地及び作付面積統計』 農林水産省『農業基盤情報基礎調査』	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	水田	種の個体数・分布域	NBSAP指標、JBO3指標	農地生態系を構成する種の生息状況（内陸性のシギ、チドリの個体数）	環境省『シギ・千鳥類調査2021年度総括報告書』 2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査とりまとめ報告書」の内陸湿地で調査サイトの結果からインプットすることを想定。	△	○	○	○	○	C	水田以外の環境や他国の影響も受けることから目標への整合性を△とした。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	水田	生物種数・多様性	NBSAP指標、JBO3指標	農地生態系を構成する種の生息状況（内陸性のシギ、チドリの種数）	環境省『シギ・千鳥類調査2021年度総括報告書』 2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査とりまとめ報告書」の内陸湿地で調査サイトの結果からインプットすることを想定。	△	○	○	○	○	C	水田以外の環境や他国の影響も受けることから目標への整合性を△とした。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	畑・果樹園・牧草地	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	放棄果樹地の面積	自然環境保全基礎調査から引用 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の比較に基づく。放棄果樹園は「アカメガシワ・エノキ群落（中国・四国ブロック）」で集計。	○	○	×	○	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	畑・果樹園・牧草地	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	放棄畑地の面積	自然環境保全基礎調査から引用 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の比較に基づく。放棄畑地は「放棄畑雑草群落」で集計。	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	二次草原・草地	面積	JBO3指標	B20-5 森林以外の草生地（野草地）の面積	農林水産省『農林業センサス』より統計値を取得	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	二次草原・草地	面積	新規	二次草原の面積	・1/2.5万植生図により把握する。	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	二次草原・草地	種の個体数・分布域	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（カヤネズミの生息面積）	2024年10月1日に公表した「モニタリングサイト1000里地調査2005～2022年度とりまとめ報告書」の掲載内容からインプットすることを想定。 ・指標：カヤネズミの生息面積（定期的な攪乱で維持される草地の状態を見る指標）	△	○	○	○	○	C	種が限られるためC指標とした。

赤字：R6年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

参考資料 2

基本戦略1

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	竹林の面積	自然環境保全基礎調査から引用 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の比較に基づく。	△	○	○	○	○	C	適切に管理された竹林とそうでない竹林を区分できるか現時点で不明であり、目標に部分的に合致すると考えられる。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	面積	JBO3指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	B20-4 さとやま指数	元の指標名称は里地里山地域（農地とその他の土地被覆のモザイク性を指標とした里地里山地域の分布） 環境省『平成23年度生物多様性評価の地図化に関する検討調査業務報告書』 山本勝利, 奥島修二, 小出水規行, 竹村武志, 2002: 1/10 細分メッシュを用いた連続性解析に基づく水田立地特性の類型化とその変化, 農村計画学会誌, 21, 163-168. 井手 任, 守山 弘, 原田直嗣, 1992: 農村地域における植生配置の特性と種子供給に関する生態学的研究, 造園雑誌, 56, 28-38	○	○	○	×	×	B	一時点の評価、更新なし
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生物種数・多様性	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地の在来植物の種数）	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生物種数・多様性	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地の在来哺乳類の種数）	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生物種数・多様性	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地里山を主な生息地とするチョウ類の種数）	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生物種数・多様性	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地の在来鳥類の種数）	モニタリングサイト1000第4期とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生物種数・多様性	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	里地里山における絶滅危惧種と元・普通種の集中地域	自然環境保全基礎調査より引用 絶滅危惧種、元普通種のうち、里地里山に生息する種の分布。鳥類は森林・開放地、両生類は止水、昆虫類は開放地・森林・止水など。魚類は区分なし。	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	JBO3指標	B33-1 哺乳類在来種の撮影個体数変化	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	NBSAP指標、JBO3指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地里山を主な生息地とするチョウ類の個体数）	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（里地の在来鳥類の個体数）	モニタリングサイト1000第4期とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（ヘイケボタル・ゲンジボタルの個体数）	モニタリングサイト1000里地調査とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	NBSAP指標	農地生態系を構成する種の生息状況（ニホンアカガエル・ヤマガエル/エゾアカガエルの個体数）	モニタリングサイト1000第4期とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	里地里山における特定外来生物の分布（種別）	自然環境保全基礎調査総合解析より把握（複数種の総合評価手法は要検討） 特定外来生物のうち里地里山で分布を拡大している種の分布変化	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	農地	里地里山	生息環境	新規	ヤマアカガエルの初産卵日の変化	モニタリングサイト1000第4期とりまとめ報告書より引用 （各年の産卵シーズンの調査で、始めて卵塊が記録された調査日を初産卵日とし、1月1日を基準とした日に変換して表したもので、気候変動の指標として利用）	△	○	○	○	○	C	一種であるため部分的に合致すると判断。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	面積	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	都市における緑地面積	自然環境保全基礎調査総合解析より把握 第3～5回植生図（2000年以前）と第6・7回植生図（～2023年）の比較に基づく。植生凡例のうち都市計画区域内に分布する緑地（森林、農地、草原、緑の多い住宅地）の面積。	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	面積	JBO3指標	B23-1 三大都市圏の土地利用	国土交通省『土地白書』	○	○	×	○	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	面積	JBO3指標	B23-3 都市公園の面積	国土交通省『都市公園等整備現況一覧表』より統計値を取得	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	面積	新規（有識者ヒア）	全国の町丁目緑被率	Vegetation cover fraction in each town block across Japanより引用	○	○	○	×	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	都市性鳥類個体数（新規）	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	都市性鳥類分布（新規）	推進費業務より提供。全国繁殖鳥類調査より解析	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	生物種数・多様性	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	都市に分布する絶滅危惧種と元・普通種の種数	自然環境保全基礎調査より提供。 絶滅危惧種および元・普通種の集中地域（全種、分類群別、種別）のうち市街化区域に分布するメッシュを切り出して種数・メッシュ数などを集計	○	○	○	×	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	都市	創出緑地	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	都市における特定外来生物の分布（種別）	自然環境保全基礎調査総合解析より把握（複数種の総合評価手法は要検討） 特定外来生物の分布の分布するメッシュ数を集計	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	陸水域	全体	面積	新規（委員会）	さとがわ指数	Higashikawa et al. 2023より引用 算定手法はURLを参照	○	○	○	×	×	B	さとがわ指数の算出には異なる年代の地理年代を使用している。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	陸水域	全体	生息環境	JBO3指標	B10-1 主要汚染物質の検出状況の経年推移（魚類・貝類）	環境省, 1978-2017: 化学物質環境実態調査	○	○	○	○	○	A	

赤字：R 6 年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	陸水域	全体	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	淡水魚類の分布（種別）	自然環境保全基礎調査より引用 2次メッシュ単位で全淡水魚類の分布データを2次メッシュで整理	○	○	○	○	○	A	
		陸水域	全体	生物種数・多様性	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	陸水生態系における絶滅危惧種と元・普通種の集中地域	自然環境保全基礎調査より引用 絶滅危惧種、元・普通種のうち淡水生態系に生息するものの分布図。鳥類のうち水辺、両生類は流水・止水、昆虫類のうちトンボ類は流水・止水で区別。	○	○	○	×	×	B		
		陸水域	全体	種の個体数・分布域	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	陸水生態系における特定外来生物の分布（種別）	自然環境保全基礎調査より引用 特定外来生物のうち両生類3種、淡水魚類7種、甲殻類2種が分布するメッシュ数を集計	○	○	○	○	×	B		
		陸水域	全体	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況	モニタリングサイト1000陸水域調査のデータから、湖沼・湿地サイト毎に種数・頻度を把握する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	全体、湖沼、高層・中間湿原、低層湿原・湿地で評価	
		陸水域	河川	面積	新規	一級、二級河川の河川延長	国土交通省「河川データブック」	△	○	○	○	○	C	一級・二級河川の河川延長が大きく増減することは基本的にないため	
		陸水域	河川	生物種数・多様性	新規（有識者ヒア）	河川性魚類の種数	推進費業務より提供。河川水辺の国勢調査より解析	○	○	○	○	×	B		
		陸水域	河川	生物種数・多様性	新規（有識者ヒア）	河川性外来外来魚類の種数	推進費業務より提供。河川水辺の国勢調査より解析	○	○	○	○	×	B		
		陸水域	河川	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	河川性魚類の個体数	推進費業務より提供。河川水辺の国勢調査より解析	○	○	○	○	×	B		
		陸水域	河川	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	河川性外来外来魚類の個体数	推進費業務より提供。河川水辺の国勢調査より解析	○	○	○	○	×	B		
		陸水域	河川湖沼	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（ガンカモ類の種数）	モニタリングサイト1000陸水域調査のデータから、湖沼・湿地サイト毎に種数・頻度を把握する。（5年に1回程度） ・2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000ガンカモ類調査とりまとめ報告書」の掲載内容から、河口または湖沼で調査を実施しているサイトを抽出してインプットすることを想定。	○	○	○	○	○	A		
		陸水域	河川湖沼	種の個体数・分布域	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（ガンカモ類の個体数）	モニタリングサイト1000陸水域調査のデータから、湖沼・湿地サイト毎に種数・頻度を把握する。（5年に1回程度） ・2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000ガンカモ類調査とりまとめ報告書」の掲載内容から、河口または湖沼で調査を実施しているサイトを抽出してインプットすることを想定。	○	○	○	○	○	A		
		陸水域	湖沼	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（水生植物の種数）	湖沼・2025年中に公表予定のモニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）のとりまとめ報告書から以下の指標についてJB04本体でのインプットを想定。 ・指標：水生植物・淡水魚類の種数【P】	○	○	○	○	○	A	多様性センターよりベンディングの指標	
		陸水域	湖沼	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（淡水魚類の種数）	湖沼・2025年中に公表予定のモニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）のとりまとめ報告書から以下の指標についてJB04本体でのインプットを想定。 ・指標：水生植物・淡水魚類の種数【P】	○	○	○	○	○	A	多様性センターよりベンディングの指標	
		陸水域	湖沼	面積	JB03指標	全国のため池の分布	農林水産省『ため池とは（全国のため池分布状況）』	○	○	○	×	○	B		
		陸水域	湖沼	生息環境	JB03指標	B25-7 霞ヶ浦、琵琶湖におけるアオコの発生件数	琵琶湖・淀川水質保全機構及び霞ヶ浦河川事務所のHP(アオコ発生概況)	○	○	×	○	○	B		
		陸水域	湖沼	生息環境	JB03指標	B25-9 閉鎖性水域（湖沼）における環境基準（COD）の達成度	環境省『公共用水域 水質測定結果』	△	○	○	○	○	C	CODの評価自体に曖昧さがあるため	
		陸水域	湖沼	生息環境	JB03指標	B2-1 湖沼における全窒素濃度及び全リン濃度及び達成状況※	環境省, 2017: 平成 29 年度公共用水域水質測定結果	○	○	○	○	○	A		
		陸水域	高層・中間湿原	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	陸水生態系：高層・中間湿原面積	自然環境保全基礎調査より引用 ・基礎調査第5回湿地調査におけるデータ、および現存植生図の湿地凡例（高層湿原、中間湿原、低層湿原等）の2時期面積集計。	○	○	○	○	○	A		
		陸水域	高層・中間湿原 低層湿原・湿地	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（湿地植物の種数）	2025年度中に公表予定のモニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）のとりまとめ報告書から以下の指標についてJB04本体でのインプットを想定。 ・指標：湿地植物の種数・被度【P】	○	○	○	○	○	A	多様性センターよりベンディングの指標	
		陸水域	高層・中間湿原 低層湿原・湿地	生物種数・多様性	NBSAP指標	陸水生態系（湖沼・湿地）を構成する種の生育生息状況（湿地植物の被度）	2025年度中に公表予定のモニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）のとりまとめ報告書から以下の指標についてJB04本体でのインプットを想定。 ・指標：湿地植物の種数・被度【P】	○	○	○	○	○	A	多様性センターよりベンディングの指標	
		陸水域	低層湿原・湿地	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	陸水生態系：低層湿原・湿地面積	自然環境保全基礎調査より引用 ・基礎調査第5回湿地調査におけるデータ、および現存植生図の湿地凡例（高層湿原、中間湿原、低層湿原等）の2時期面積集計。	○	○	○	○	○	A		
		沿岸・海洋域	全体	面積	NBSAP指標（行動目標）	OECM面積（海域）	Protected Planetに提出しているポリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A		
		沿岸・海洋域	全体	面積	NBSAP指標（行動目標）	保護地域面積（海域）	Protected Planetに提出しているポリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A		

赤字：R6年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		行動目標に関するトピック	沿岸・海洋域	全体	面積	NBSAP指標（行動目標）	海域における保護地域及びOECMの面積割合	・Protected Planetに提出しているポリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		行動目標に関するトピック	沿岸・海洋域	全体	面積	NBSAP指標（行動目標）	海域（EBSAs）に対する保護地域・OECM該当面積割合	・Protected Planetに提出しているポリゴンデータに基づきGISベースで算出（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	面積	JBO3指標	B28-2 浅海域の埋立面積	国土地理院『全国都道府県市区町村別面積調査』より統計値を取得（毎年の全国の面積の前年差を埋立面積と解釈する。西之島は除く）	△	×	○	○	○	C	毎年の全国の面積の前年差を埋立面積と解釈しており、正確性に欠けるため。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	種の個体数・分布域	GBFヘッドライン指標	5.1 Proportion of fish stocks within biologically sustainable levels 生物学的に持続可能な水準にある魚類資源の割合		○	○	○	×	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	種の個体数・分布域	JBO3指標	B30-1 我が国周辺水域の漁業資源評価	農林水産省『水産資源評価結果（魚種別漁獲量）』	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	種の個体数・分布域	JBO3指標	B30-2 漁獲量と海洋食物連鎖指数（MTI）	農林水産省『海面漁業魚種別漁獲量統計』、University of JBritish ColonJBia『Sea Around Us より Marine Trophic IndexのEEZ内Japan (main island)https://www.seaaroundus.org/data/#/main-island』	△	○	○	○	○	C	GBO 4 では指標として課題があり使われなかったため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	種の個体数・分布域	JBO3指標	B28-15 海鳥営巣数の変化	環境省『令和4年度 知床国立公園における海鳥の分布 調査等業務』	△	○	×	○	○	C	知床のみで鳥類の種数も限られるため。
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	種の個体数・分布域	新規（有識者ヒア）	海岸防護	InVestモデルを用いて算出	○	○	○	×	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	JBO3指標	B2-1 海域における全窒素濃度及び全リン濃度及び達成状況※	環境省, 2017: 平成 29 年度公共用水域水質測定結果	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	新規（委員会）	日本近海の海面水温	気象庁HPより引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	新規（有識者ヒア）（委員会）	海洋酸性化状況	気象庁HPより引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	新規（有識者ヒア）	黒潮の経年変化	気象庁「黒潮の数か月から十年規模の変動」	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	新規（有識者ヒア）	海洋域のクロロフィル濃度	環日本海海洋環境ウォッチー環境省・NPEC/CEARACー	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	JBO3指標	B28-13内湾及び閉鎖性海域における赤潮の発生件数	東京都内湾、伊勢湾、瀬戸内海：1979～2013：環境省閉鎖性海域対策室資料、2014～2017：東京都環境局資料（海域プランクトン調査結果報告書）、伊勢湾・三河湾の赤潮発生状況（愛知水試研究業績）、瀬戸内海漁業調整事務所HPより統計値を取得。 有明海・八代海：令和4年九州海域の赤潮 （1）年次別・海域別発生状況（九州漁業調整事務所）	○	○	×	○	○	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	JBO3指標	B28-14 閉鎖性海域における環境基準（COD）の達成度	環境省『公共用水域 水質測定結果』	△	○	○	○	○	C	CODの評価自体に曖昧さがあるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	全体	生息環境	新規（有識者ヒア）	人工護岸率	環境省 第5回自然環境保全基礎調査海辺調査総合報告書（H9～13年度）、国土交通省 海岸統計	○	○	○	○	×	B	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	サンゴ礁	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合）	沿岸・海洋生態系（サンゴ礁）面積	・自然環境保全基礎調査におけるサンゴ礁面積を把握する。（10年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	自然研から解析は実施しないと回答があったが、マスタープランには記載があるため継続性（将来）を○とした
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	サンゴ礁	生息環境	NBSAP指標	沿岸・海洋生態系（サンゴ礁）モニタリングサイトにおけるサンゴ被度	・モニタリングサイト1000サンゴ礁調査のデータから、サンゴの平均被度を算出し、評価する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	サンゴ礁	生息環境	新規（モニ1000）	サンゴ礁の白化した地点の割合	モニタリングサイト1000第4期とりまとめ報告書より引用	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	藻場	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	沿岸・海洋生態系（藻場）面積	・自然環境保全基礎調査における藻場（海藻、海藻は問わない）面積を把握する。（10年に1回程度） 1980-1990年代の藻場分布データと2018-2020の藻場分布データは比較不可。前者は1980年代（第2回基礎調査）から1990年代（第4回基礎調査）の藻場分布データの比較。後者は基礎調査の藻場調査2018-2020と閉鎖性海域藻場・干潟分布状況調査（環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室）を合わせた全国の藻場分布を表示・集計	○	○	○	×	○	B	過去データは比較不可なため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	藻場	生物種数・多様性	NBSAP指標	沿岸・海洋生態系（藻場）モニタリングサイトにおけるアマモ場・藻場平均被度及び種組成の変化（種組成）	・モニタリングサイト1000沿岸域調査結果のデータから、アマモ場・海藻藻場の平均植被率・種組成の変化を算出し、評価する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	藻場	生息環境	NBSAP指標	沿岸・海洋生態系（藻場）モニタリングサイトにおけるアマモ場・藻場平均被度及び種組成の変化（平均被度）	・モニタリングサイト1000沿岸域調査結果のデータから、アマモ場・海藻藻場の平均植被率・種組成の変化を算出し、評価する。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	藻場	生息環境	新規（有識者ヒア）	ウニや植食性魚類等による磯焼け被害量	水産庁「第3版 磯焼け対策ガイドライン（令和3年3月）」第5章 2020年全国岩礁性藻場の衰退状況のアンケート調査結果を活用 ただし、ウニ、アイゴ。ウミガメはアマモへの食害のため本指標では捉えられない。	△	○	○	○	×	C	アンケート調査の結果のみであるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上すること で健全性が回復している	沿岸・海洋域	干潟	面積	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	沿岸・海洋生態系（干潟）面積	・自然環境保全基礎調査における干潟のうち、河川区域外にある干潟（主に前浜干潟）の面積を把握する。（10年に1回程度） 1980年代（第2回基礎調査）から1990年代（第4回基礎調査）の干潟分布データの比較のみ自然環境保全基礎調査総合解析で実施。	○	○	○	×	○	B	過去データは比較不可なため

赤字：R 6 年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	沿岸・海洋域	干潟	生物種数・多様性	NBSAP指標（自然環境保全基礎調査総合解析）	沿岸・海洋生態系（干潟）モニタリングサイトにおける干潟の底生生物確認種数・生息密度	・モニタリングサイト1000沿岸域調査の底生生物調査結果から、確認種数及び生息密度を把握する（ただし外来生物を除く）。（5年に1回程度）	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	沿岸・海洋域	干潟	生物種数・多様性	NBSAP指標、JBO3指標	沿岸・海洋生態系（干潟）を構成するシギ、チドリの個体数・確認種の変化傾向（種数）	・モニタリングサイト1000シギチドリ類調査のデータから、シギチドリ類の個体数、種数、確認地点数で評価する。（5年に1回程度） 2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査とりまとめ報告書」の掲載内容からインプットすることを想定。	△	○	○	○	○	C	シギ・チドリは海外の生息場の影響も受けるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	沿岸・海洋域	干潟	種の個体数・分布域	NBSAP指標、JBO3指標	沿岸・海洋生態系（干潟）を構成するシギ、チドリの個体数・確認種の変化傾向（個体数）	・モニタリングサイト1000シギチドリ類調査のデータから、シギチドリ類の個体数、種数、確認地点数で評価する。（5年に1回程度） 2024年中に公表予定の「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査とりまとめ報告書」の掲載内容からインプットすることを想定。	△	○	○	○	○	C	シギ・チドリは海外の生息場の影響も受けるため
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	沿岸・海洋域	砂浜	面積	新規	砂浜のある海岸線延長	海岸統計より	○	○	○	○	○	A	
		全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	沿岸・海洋域	砂浜	生息環境	新規（モニ1000）	ウミガメの性を決定する砂中温度	モニタリングサイト1000ウミガメ類調査とりまとめ報告書より引用	△	○	○	○	○	C	一種であるため部分的に合致すると判断。（全国5地域での調査）

赤字：R 6 年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
	状態目標1-2 種レベルでの絶滅リスクが低減している	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	GBFヘッドライン指標、NBSAP指標	A.3 Red List Index レッドリストインデックス	・国内レッドリストを用いてレッドリストインデックスを算出する。（随時） 国立環境研究所HPで過去の推移が公開 https://www.nies.go.jp/social/japansdi/nexus/data/id17.html	○	○	○	○	○	A	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	NBSAP指標	レッドリスト掲載種数	・環境省レッドリストのうち、絶滅危惧Ⅱ類までの種数（DDは含めない）を把握する。（随時）	△	○	○	○	○	C	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	NBSAP指標	環境省レッドリストにおいてランクが上がったまたは下がった種の数	・前回リストと現行リストとの比較（おおむね5年ごと）し、環境省レッドリストにおいてランクが下がった種の数[種]【泉橋】（随時）	○	○	○	○	○	A	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	JBO3指標	B3-1 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種等の割合	JBO3と同じ年次のデータを掲載するが、委員指摘を踏まえ絶滅危惧種の凡例を細かくした。	○	○	○	×	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	JBO3指標	B18-3 希少動植物の採取圧の現状と過去の傾向		△	○	○	○	○	C	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	JBO3指標	B21-2 トキ・コウノトリの野生個体数		△	○	×	○	×	C	シンボル、フラグシップ種としての意味合いもあるため指標に追加
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	新規（モニ1000）	沖縄島でのマングース防除によるヤンバルクイナの個体数変化	モニ1000より引用	○	○	×	○	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	JBO3指標	B3-6 生物分類群ごとの絶滅危惧種の減少要因	株式会社ぎょうせい「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック」	○	○	○	×	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	種	—	JBO3指標	B3-7 絶滅種、野生絶滅種の絶滅要因	株式会社ぎょうせい「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック」	○	○	○	×	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	絶滅危惧種の分布	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 全国2次メッシュ図、メッシュ数集計（都道府県別・地方別）。解析対象の分類群は鳥類、両生類、昆虫類（ハンミョウ類、トンボ類、チョウ類）	○	○	○	×	○	B	自然環境保全基礎調査では過去のデータと比較不可
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	減少要因別の絶滅危惧種の確認種数の分布（第1の危機）	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 全国2次メッシュ図、メッシュ数集計（都道府県別・地方別）	○	○	○	×	○	B	自然環境保全基礎調査では過去のデータと比較不可
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	減少要因別の絶滅危惧種の確認種数の分布（第2の危機）	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 全国3次メッシュ図、メッシュ数集計（都道府県別・地方別）	○	○	○	×	○	B	自然環境保全基礎調査では過去のデータと比較不可
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	減少要因別の絶滅危惧種の確認種数の分布（第3の危機）	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 全国4次メッシュ図、メッシュ数集計（都道府県別・地方別）	○	○	○	×	○	B	自然環境保全基礎調査では過去のデータと比較不可
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	減少要因別の絶滅危惧種の確認種数の分布（第4の危機）	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 全国5次メッシュ図、メッシュ数集計（都道府県別・地方別）	○	○	○	×	○	B	自然環境保全基礎調査では過去のデータと比較不可
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（自然環境保全基礎調査総合解析）	元・普通種の分布	自然環境保全基礎調査総合解析のテーマ1より引用する。 解析対象の分類群は哺乳類、鳥類、両生類、淡水魚類、昆虫類（甲虫類、ハンミョウ類、トンボ類、チョウ類）	○	○	○	○	○	A	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	JBO3指標	B31-1 南西諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合		○	○	×	○	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	JBO3指標	B31-2 小笠原諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合		○	○	×	○	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	JBO3指標	B31-3 南西諸島における絶滅危惧種の減少要因		○	○	×	○	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	JBO3指標	B11-3 奄美大島および沖縄島北部地域のマングース捕獲頭数および捕獲努力量		○	○	×	○	○	B	
		レッドリスト掲載種の絶滅リスク	レッドリスト掲載種の絶滅リスク	分布	—	新規（モニ1000）	亜熱帯島嶼における森林の現存量と外来樹木の個体数の変化	モニタリングサイト1000報告書より引用	○	○	×	○	○	B	
	状態目標1-3 遺伝的多様性が維持されている	遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的多様性の減少	—	GBFヘッドライン指標	A.4 The proportion of populations within species with an effective population size > 500 有効集団サイズが500を超える種内の個体群の割合		○	○	○	×	○	B	
		遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的多様性の減少	—	新規（有識者ヒア）	植物の有効集団サイズ500を超える割合	既往論文より引用	○	○	○	×	×	B	
		遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的多様性の減少	—	新規（有識者ヒア）	種内で維持されている遺伝的に独立した個体群の割合	既往論文より引用	○	○	○	×	×	B	
		遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的多様性の減少	—	新規（委員照会）	サンゴの遺伝的多様性に基づく重要海域	既往論文より引用	○	○	○	×	×	B	
		遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的攪乱	—	新規	千葉県内のニホンザルとアカゲザルの交雑率の変化	既往文献より引用	△	○	×	×	×	C	種が限定的であること、調査様式が変わっているので過去からの経年変化を終えないことに留意が必要
		遺伝的多様性が維持されている	人間が利用する農作物等の遺伝的多様性	—	—	JBO3指標	P7-1 農作物の遺伝資源保存数		○	○	○	○	×	B	